

編集部が目じた年内入試【国立大学】

*2020年8月時点。最新の情報は各大学のWebサイト等をご確認ください

	小樽商科大学	電気通信大学	金沢大学	滋賀大学	島根大学
年内入試比率 (年内入試募集人員 / 全募集人員)	135人※ / 465人(29%) ※出願期間が2021年1月14日～21日の昼間コース学校推薦型選抜含む	91人※ / 690人(13%) ※夜間主課程を除く	182人※ / 1726人(11%) ※2021年2月に実施する「KUGS特別入試(医学類)」および「薬学類・高大院接続入試」含む	230人 / 790人(29%)	254人 / 1157人(22%)
注目の年内入試	グローバル総合入試(総合型選抜) 合格者20人中最大5人はギャップイヤープログラムに参加可能。入学を1年間猶予し、1セメスター(8～12月)語学留学を行う ▶実施学科:経済、商【一般枠】(15人) ▶出願条件:CEFR B1以上 ▶選抜方法:<第一次選抜>書類選考 <第二次選抜>英語および日本語による口頭試問 ▶出願条件:数学Ⅲを履修、英語資格・検定試験を受検 ▶選抜方法:<第一次選抜>書類選考 <第二次選抜>英語および日本語による口頭試問 学校推薦型選抜 【一般枠】(85人) 【専門学科・総合学科枠】(10人)※同一高校からの推薦は2枠合計で4人以内 ▶実施学科:全学科 ▶選抜方法:大学入学共通テスト(国語、数学、英語の中から1教科)の成績、自己推薦書、調査書、推薦書。面接は行わない	総合型選抜 ▶実施学部:情報理工学域Ⅰ類(情報系)、Ⅱ類(融合系)、Ⅲ類(理工系) ▶選抜方法:<第一次選考>調査書、志望理由書、活動実績報告書による書類選考。活動実績報告書には、各類型で指定する活動について記載する。(例)Ⅲ類:次の①および②をまとめたものを作成。①大学実施のUECスクールや他大学でのスクーリング・セミナー参加、科学系オリンピック、学外研究発表会等の活動実績の一覧と内容の紹介 ②高校等での理工学に関する代表的な研究の内容。関連する基礎的な原理・法則・応用などを含めて、研究方法と結果を説明する。図表や式を含めてもよい <第二次選考>面接試験。各類型ごとに、定められた方法で行う(例)Ⅲ類:活動実績報告書の内容に関するプレゼンテーション(10分程度)と、その内容や提出書類に関する質疑応答を中心とする面接・口頭試問(20分程度)を実施し、活動内容に関する理解、論理的かつ明快に説明する能力、理工学に関する基礎学力と適性および関連する能力を総合的に評価する	KUGS特別入試 「基礎的知識・技能を修得し、それらを活用して自ら課題を発見し、探究する能力を備えている人」「将来に明確な目標を持っており、主体的に行動し、他者と協働しながら、自身の夢を実現しようとする強い意欲を持っている人」を募集 ▶実施学域:全学域(一部の学類を除く) ▶出願条件:KUGS高大接続プログラムを受講。課題レポート「大学での学び」「高校での学び」を提出し、大学の評価基準をクリアすること ▶選抜方法:全ての募集単位で口述試験を重視する。【総合型選抜Ⅰ】【学校推薦型選抜Ⅰ】大学入学共通テスト受験を必要としない【総合型選抜Ⅱ】【学校推薦型選抜Ⅱ】大学入学共通テスト受験を必要とする 超然特別入試 ▶実施学域:全学域(一部の学類を除く) 【A-lympiad(エーリンピアード)選抜】数学的に特異な才能を持ち、その才能を生かして将来専門的分野で社会的な課題の解決に取り組む強い意欲を持っている人を募集。【超然文学選抜】文学的に特異な才能を持ち、その才能を生かして将来専門的分野で社会的な課題の解決に取り組む強い意欲を持っている人を募集。<出願条件>いずれも、大学が行うコンテストに入賞すること	総合型選抜 ▶実施学部:全学部 ▶出願条件:学部・募集型によって異なる ▶選抜方法:<第一次選考>学部・募集型によって異なる <第二次選考>主に面接 <最終選考>大学共通テストで規定以上の点数(学部・募集型によって異なる)を取る (データサイエンス学部の例) 【データサイエンス講座受講型】<出願条件>キャンパスで開講するデータサイエンス講座を受講 <第一次選考>調査書、志望理由書、講義の課題レポートおよび取得資格(加点) 【オンライン講座受講型】<出願条件>学部がWeb配信するMOOCを視聴 <第一次選考>調査書、志望理由書、オンライン講座の課題レポート、小論文および取得資格(加点) 【実績評価型】<出願条件>全国規模で開催されるデータ分析やプログラミングに関するコンペティション等への参加経験者 <第一次選考>出願書類(調査書、志望理由書、実績報告レポート)、取得資格(加点)	総合型選抜(総合型選抜) ▶実施学部:法文、教育(学校教育課程Ⅱ類)、総合理工、生物資源科学 ▶選抜方法:【へるん一般型】(178人)大学の学びで必要な特定の領域・事象に対する強い好奇心と探究心「学びのタネ」がある生徒を募集する入試。共通テストは課さず、①調査書およびクローズアップシート(高校生活で力を入れて取り組んだ活動報告書) ②読解・表現力試験、理数基礎テスト(一部の学科を除く総合理工学部) ③志望理由書を用いた面接 【へるん特定期型】(76人)「学びのタネ」+特定の技能等のある生徒を募集する入試。へるん一般型と同じ評価法+下記の付加評価項目 ・地域志向入試→地域志向レポートに基づく面接 ・専門高校入試→専門教科の評定や、資格・検定など加点 ・グローバル英語入試→英語外部検定試験の一定のスコア取得が出願要件。面接による英語活用能力評価、英語外部検定試験のスコア加点など ・芸術・スポーツ・技能入試→実技評価
コロナ禍対応 (感染予防、学習の遅れ等)	▶グローバル総合入試において出願条件となっている民間の英語検定試験に関し、利用期間を延伸	▶総合型選抜について、受験者の学習の遅れに配慮し出願期間を変更	▶経済学域のKUGS特別入試(学校推薦型選抜Ⅰ)では、TOEIC(L&R)に代えて、口述試験の一部を英語にて実施することで英語能力を評価する	▶総合型選抜において、出願期間を変更。教育学部の第二次選抜の集団討論は実施しない	▶出願資格や付加評価項目から英語資格・検定試験や関連する有資格について除外
入学前教育 (内容と担当部署)	▶1年間の入学猶予期間を伴うギャップイヤープログラム履修生(最大5人)対象:5月からのギャップイヤープログラム派遣先大学(ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ)で十分に学修できるよう、英語力を強化するため、高校生になじみの少ないTOEFL対策を実施し、ギャップイヤープログラム派遣までの3か月でペーパーベースで500以上のスコアを目標。4月以降は、本学共通科目「外国事情 [※] 」(2単位)を履修 ▶担当:グローバル教育部門担当教員 ▶その他:国際交流担当職員による派遣先大学のアプリケーション作成やビザ取得、航空機や現地宿泊施設の手配などのアドバイスや危機管理に関する説明などを実施。「外国事情」および派遣先で修得した単位は、本学の入学前既修得単位として認定されることがある ※外国事情:派遣留学に参加する学生を対象として実施。留学前の事前指導や、留学中の月次レポート提出、留学後の事後指導の参加などが義務付け	▶各類型の判断で、必要に応じて課している	▶「KUGS高大接続プログラム」の課題レポートについて、評価コメントやポータルサイトを通じた質問、オンラインでの個別面談に基づく指導を行い、大学でのレポート作成に関する基本的な技能を修得できるように支援。レポート作成に関するeラーニング教材も提供。また、多様な学問領域のセミナー動画が常時視聴可能となっており、大学における学修や研究の実際についての理解を深めるための機会を提供 ▶担当:高大接続コア・センター	▶学校推薦型選抜や社会人選抜、総合型選抜などの合格者が対象。遠隔地居住の合格者も参加しやすいように、動画コンテンツやeラーニングシステムを利用した入学前教育を実施。在学生英語自主学習用の英語eラーニングシステムを利用した英語教育プログラムも実施。入学後に受験するTOEICに準拠したeラーニング教材。1年次の必修科目「大学英語入門」の先取り学習を兼ねる ▶担当:高大接続・入試センター	▶へるん入試合格者が対象 ①全学共通の課題(英語eラーニング) ②各学部学科各専攻が指定する専門教育の課題 ③2日間にわたる入学前セミナー(グループディスカッションやガイダンス)を含む入学前教育実施(本年はオンラインで実施予定) ▶担当:②は各学部学科各専攻、①③は全学
入学後の特徴的な教育	▶海外での長期学外学修を通じ、国際感覚の涵養や自律的な学習習慣の確立を期待 ▶地域志向科目の履修やさらなる留学等を経て、高い資質を持った「グローバル人材」となることを期待	▶UECグローバルリーダー育成プログラム 3年次から博士前期課程にかけて行われる選抜制の学士・修士一貫教育プログラム。通常より半年早い3年次後期に研究室に配属され、4年次の秋までに卒業研究を終了。学域卒業までの期間に、国内外の研究機関や海外の大学などで研修を行う。大学院では、セミナーやカンファレンスを自身で企画し、運営する ▶UECパスポートプログラム 自主研究を通して、研究者・技術者としての能力を養成する選抜制プログラム。1年次は学内外の研究者から最先端の科学・技術について学び、2、3年次は研究者や大学院生の指導のもとで自主研究。大学関連発表会等で成果を発表する	▶共通教育、学士課程、大学院課程、全ての教育がKUGS(金沢大学<グローバル>スタンダード)に基づいて行われる。カリキュラム改革もKUGSに基づいて行われており、2016年度には約300科目だった共通教育科目を、5つのスタンダードで整理・集約し、30の共通教育のGS科目とした	▶データサイエンス教育の全学への展開。全学共通教養科目に「数理・データサイエンス領域」を設け全学部学生に必修化。2020年度からは「数理・データサイエンス・AI領域」とし、AIの要素を取り入れた科目を開講。教育学部、経済学部の学生はデータの理解と取り扱いを会得し、データサイエンス学部の学生は教育や経済を中心にさまざまな領域の基礎的知識を修得、幅広い分野に応用のきく人材を育成	▶へるん入試合格者が対象 ①英語の特別補習授業実施(へるん入試合格者以外にも適用) ②各学生の「学びのタネ」をより深化、展開するために、1年次から各専門分野に触れる機会を設ける ③担任教員による学びの相談、サポートを行う「フレッシュセミナー」の実施(学部によりへるん入試合格者以外にも適用)
高大連携の取り組み	▶出前講座。小樽商科大学での学びを入学前に知ってもらう必要性を鑑み、要望があれば実施 ▶模擬講義、キャンパス見学等。ただし現在はコロナ禍の影響で行っていない	▶高大接続教育プログラム「UECスクール」 高校1、2年生を対象。「大学で何を学ぶか、どのように学ぶか」を理解してもらうことを目的に、実験・演習を取り入れた2つのプログラムを開講。「先取り学修」では、大学生と同じ教材でeラーニングとスクーリングによりRubyなどのプログラミングを学ぶ。入学後には同大学の単位を認定。「高大接続教室」は理科学実験とプログラミング入門の2つのコースがあり8、10、12月の3回にわたって実施 ▶出張講義はオンラインでの実施も受け付ける	▶KUGS高大接続プログラム 興味のある個別プログラムを選んで受講 【KUGS Live セミナー】対面参加型 【KUGS ラウンドテーブル】テーブルを囲み話題提供者のテーマにより自由に意見を交換しながら議論 【KUGS Web セミナー】Web視聴型 ※いずれも年間を通して受講可能	▶滋賀県立高等学校生徒を対象に大学連携講座を実施。ただし本年度は、受講者および大学関係者の健康・安全面を確保する観点から開催を中止	▶高校単位でのワークショップ形式の大学訪問。「地域の未来」をテーマに、個人ワーク→学部訪問→グループワーク→個人ワークと、順に取り組みながら自らの興味・関心や問題意識をこぼしにして、各自の問題意識と大学(学部・学科)の取り組みをつなぎ、好奇心や探究心(学びのタネ)を深めていく ▶出張講義

REPORT

入試内容は？入学前教育は？コロナ禍対応は？

注目の年内入試一覽

改革元年となる今秋の年内入試。各大学はどんな入試を行っているのか。入学前後の教育につなげているのか。編集部が目じた国公立15校の入試を中心に、状況を調べてみた。

年内入試比率

国大協が掲げた30%目標の状況は？

私立大学は年内入試比率が50%以上の大学も多いが、近年比率を高めつつある国公立大学の状況はどうか。まず気になるのは、国立大学協会が掲げた「2021年度までに総合型・学校推薦型選抜の占める割合を入学定員の30%とする」という目標の状況だ。編集部が調査によると、地域別では東北、四国が比較的高く、大学別に見ると30%を超えたのは室蘭工業大学(40%)、高知大学(33・3%)、弘前大学(32・4%)など。旧帝大では東北大学が唯一、28%と30%に近い水準だった。

一方公立大学は、年内入試比率30%以上の大学が4割弱。特筆すべきは、大学周辺地域出身者対象の「地域枠」入試だ。この入試の比率が30%以上を占める公立大学は、25%弱(いずれも編集部調べ)。P.8で掲載した公立大学の中には、例えば公立鳥取環境大学は学校推薦型選抜において、I型の*1地域枠に加え、県内高校出身者のみを募る*2II型、*3III型を新設した。島根県立大学の学校推薦型選抜(連携校推薦)は、育成型の地域枠と言えそうだ。県内の高校に対し、夏季講習や中間発表会など地域づくりに関する学習機会を提供し、参加を同選抜の*4出願条件としている。

なお、国立大学でも、地方を中心に「地域枠」の活用がめだってきた。地方国立大学は今後、*5国の支援を背景にした定員増が見込まれる。地方の公立、私立大学においては、年内入試を含め募集全体に影響があると考えられる。地元を受験生を呼び込む手段について、検討にさらに力を入れたい。

年内入試の内容

高校生を育てて迎える 育成型の入試に注目

今回は、入学後の大学教育がよく伝わる入試内容であるだけでなく、高大接続の取り組みや入学前教育を含む「高大接続プログラム」として設計された入試に着目した。高校教員や高校生にとって、

*1 経営学部のみ *2 両学部 *3 環境学部のみ
*4 本年はコロナ禍により志望理由書に代替 *5 内閣府「まち・ひととしと創生基本方針2020」(7月に閣議決定)

*2020年8月時点。最新の情報は各大学のWebサイト等をご確認ください

編集部が目撃した年内入試【公立大学】

	三重県立看護大学	県立広島大学	公立鳥取環境大学	島根県立大学	熊本県立大学
年内入試比率 <small>(年内入試募集人員／全募集人員)</small>	40人／100人(40%)	173人／530人(33%)	150人／300人(50%)	50人／140人(43%)※地域政策学部	127人／480人(26%)
注目の年内入試	<p>特別選抜</p> <p>▶出願条件：【学校推薦型選抜】(下記3選抜も含め40人程度)</p> <p>①三重県内の高校に在学もしくは三重県内に住所があり県外の高校に通学 ②国語、数学、外国語、理科、「地理歴史・公民」の学習成績状況が3.8以上</p> <p>【地域推薦型選抜】(6人程度)</p> <p>①推薦市町に4年以上就業する意思を有する者 ②国語、数学、外国語、理科、「地理歴史・公民」の学習状況が4.3以上 ③学校推薦選抜型と併願可だが、地域推薦型選抜での合格が優先 ④化学基礎と生物基礎を履修していることに加え化学または生物を履修</p> <p>【指定校推薦型選抜】(3人)</p> <p>①国語、数学、外国語、理科、「地理歴史・公民」の学習状況が3.8以上 ②高校で物理・化学および生物のうち2科目を履修 ③英検準2級またはGTECで690点以上取得し証明書を提出 ④高大接続事業に参加し、看護職者としての適性について考察を経た者</p> <p>【東紀州地域指定校推薦型選抜】(2人)</p> <p>①本学が指定する東紀州地域内の高校を卒業見込み ②国語、数学、外国語、理科、「地理歴史・公民」の学習状況が4.0以上 ③化学基礎と生物基礎を履修していることに加え化学または生物を履修</p>	<p>学校推薦型選抜</p> <p>▶実施学部：全学部(168人)</p> <p>▶選抜方法：①書類審査：「主体性・協働性」は調査書を中心として評価(5点満点。生物資源科学部のみ30点満点)。「県立広島大学・地域への志向性」は、評価申請書に基づき、自学や他大学が実施している公開講座や高大接続事業等への参加等の取り組みについて、最大5点加点。地域創生学科地域産業コース(応用情報志向枠 県内専門高校推薦のみ)は高校在学中に対象資格の取得者に最大20点の加点(1つのみ) ②個別試験(小論文、面接等) ③大学入学共通テスト。2021年度は原則、受験を免除するが、地域創生学部地域創生学科健康科学コースは下記科目の受験が必要</p> <p>【県内高校推薦】①または②のいずれか。①物理基礎、化学基礎、生物基礎から2科目および物理、化学、生物から1科目 ②物理、化学、生物から2科目</p> <p>【県内専門高校推薦】物理基礎、化学基礎、生物基礎から2科目</p> <p>総合型選抜</p> <p>▶実施学部：生物資源科学部地域資源開発学科(5人)</p> <p>▶選抜方法：<第1次選抜>書類審査(志望理由書・活動実績報告書および調査書) <第2次選抜>面接</p>	<p>学校推薦型選抜</p> <p>▶実施学部：【I型】環境(30人)、経営(45人。地域枠15人、専門高校枠8人含む) 【II型】環境(10人)、経営(10人) 【III型】環境(15人)</p> <p>▶出願条件：これまでの推薦入試の出願条件の評定平均値3.8以上の基準を廃止。新設するII型、III型は鳥取県内の高校出身者のみ</p> <p>▶選抜方法：【I型】出願書類、小論文(100点)および個別面接(10～15分)(100点)。大学入学共通テストは課さない</p> <p>【II型】大学入学共通テスト(一般選抜前期日程(A方式)と同じ科目のうち高得点の3教科3科目を採用)の本学が指定する科目の得点(300点)、出願書類、小論文(150点)および個別面接(150点)</p> <p>【III型】出願書類、プレゼンテーション(15分程度)・質疑応答(20分程度)。大学入学共通テストは課さない</p> <p>総合型選抜</p> <p>▶実施学部：環境(20人)、経営(20人)</p> <p>▶選抜方法：出願書類、模擬授業(レポート)(100点)、集団面接(1グループ30分程度)(50点)、個別面接(15分程度)(50点)</p>	<p>学校推薦型選抜(連携校推薦)</p> <p>高大接続型の課題探究型授業の取り組みを入試で評価していくことが目的</p> <p>▶実施コース：地域づくりコース(20人)</p> <p>▶出願条件：連携校と指定された島根県内の高校からの推薦(1校当たり2人まで)。評定平均3.5以上、島根県立大学主催の地域づくりに関する夏季講習や中間発表会に参加している者(本年はコロナ禍により志望理由書に代替)</p> <p>▶選抜方法：地域づくりコースの学びに対する意欲、自己表現能力やコミュニケーション能力などを評価。①プレゼンテーション(100点) ②面接(100点)。調査書、志望理由書を参考資料とする。大学入学共通テストは課さない</p> <p>総合型選抜・自己推薦(リーダーシップ入試)</p> <p>▶実施コース：地域づくりコース(10人)</p> <p>▶出願条件：高校在学中に、主体的にリーダーシップを持った活動を行ったことがある者(生徒会、部活動、NPOや起業などでのリーダー、副リーダーとしての経験)</p> <p>▶選抜方法：①小論文(100点)基礎学力評価 ②プレゼンテーション(100点) ③個別面接(100点)。大学入学共通テストは課さない</p>	<p>自己推薦型選抜</p> <p>▶実施学部：環境共生 居住環境学専攻、総合管理</p> <p>※以下、総合管理について取り上げる</p> <p>▶選抜方法：<第一次選考>総合問題(200点) 次の内容により基礎学力を測定する。①現代の社会に関する知識 ②文章の読解力・漢字認識力・表現力 ③英文の読解力 ④統計等の資料の理解力</p> <p><第二次選考>面接(100点)、自己推薦書の書類選考(100点) 自己推薦書の評価観点：①総合管理学部のアドミッション・ポリシーに合致するような人材であるか ②本学で学ぶことへの意欲はどの程度か ③本学入学後あるいは本学卒業後の目標はどの程度明確か ※調査書については、面接の際の参考資料としてのみ使用し、評価の対象とはしない</p>
コロナ禍対応 (感染予防、学習の遅れ等)	<p>▶新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学者の受験機会確保のため、全ての入試区分において追試験を実施</p> <p>▶感染拡大により予定していた試験が実施できなかった場合は、以下のとおり対応 ①学校推薦型選抜、地域推薦型選抜：大学入学共通テストの得点で合否を決定 ②指定校推薦型選抜、東紀州地域指定校推薦型選抜：オンラインにて面接を実施し、合否を決定</p> <p>▶指定校推薦型選抜：資格・検定試験は資格に相当する英語力があると認められることが明記されている調査書等、高校の証明書類の提出をもって代替可</p>	<p>▶出願書類および入学手続き書類の窓口での受け付けを中止し、郵送のみ</p> <p>▶合格者はWebで掲載するとともに、合格者には合格通知書を送付</p> <p>▶地域創生学科地域文化コースにおける学校推薦型選抜の異文化体験枠で、これまで求めてきた「実用英語技能検定」(英検)等の語学資格・検定試験の結果の提出は、2021年度入学者選抜においては不要</p> <p>▶受験生に試験場でのマスク着用を要請</p>	<p>▶所定の要件を満たす場合に限り、追試験を実施する。詳細は、募集要項に記載</p>	<p>▶連携校推薦の出願条件のうち、「島根県立大学主催の地域づくりに関する夏季講習や中間発表会に参加」は、本年は志望理由書に代替</p>	<p>▶書類選考において、中止等となった大会等については報告書があれば提出を受け付ける</p>
入学前教育 (内容と担当部署)	<p>▶看護学の基盤となる化学、生物について独自のテキストと動画配信教材を使用した自宅学習とスクーリングを実施</p> <p>▶担当：事務局教務学生課</p>	<p>▶生物資源科学部地域資源開発学科：英語、数学、理科について、高校の学習の総まとめとなる通信添削学習</p> <p>▶生物資源科学部生命環境学科：高校の学習の総まとめとなる学習を行う</p> <p>▶担当：庄原キャンパス事務部教学課</p>	<p>▶年内入試合格者に対して、学部ごとに課題学習を課す</p> <p>▶担当：入試広報課</p>	<p>▶入学までの学習準備について助言したり、課題学習を出したりする</p> <p>▶担当：アドミッション室</p>	<p>▶年内入試合格者に対し11～3月に「入学前学習支援プログラム」を実施。プレエントランス講座：キャンパスにてガイダンスや講義等を実施。総合管理学部では、オリエンテーション、グループワークを予定</p> <p>入学前の学習支援：課題を与え、教員が個別に指導等を行う。総合管理学部の課題は、英文和訳や読書感想文を予定</p> <p>▶担当：事務局教務入試課入試班</p>
入学後の特徴的な教育	<p>▶特別講座およびフィールドワーク「三重を知ろう」(1年次対象：5～6月)</p> <p>▶三重県の看護の質向上の拠点である同大学の学生が、県内地域の人々の暮らしとその背景にある文化を理解し、地域の人々の健康な暮らしをめざす看護職者となるきっかけとするため、三重県知事による講演「三重県の文化と魅力」のほか、大学近隣の歴史的町並みでの暮らしについてのフィールドワークによる「三重を知ろう」を実施</p> <p>※本年度のフィールドワークは、実施予定日が新型コロナウイルス感染症対策のための出校停止期間と重なったため中止</p>	<p>▶アクティブ・ラーニングを活用した授業：「行動型学習」と「参加型学習」を組み合わせた「能動的学習」の導入により「課題探究型地域創生人材」を育成</p> <p>▶経過選択・コース選択制度の導入：入学後、幅広い教養や専門の基礎などに触れながら興味や関心、将来像などに基づいて主体的にコース選択。経過選択制/地域創生学部地域創生学科(地域文化コース・地域産業コース)一般選抜後期入学者、生物資源科学部生命環境学科(生命科学コース・環境科学コース)一般選抜後期入学者対象コース選択/保健福祉学部一般選抜前期「コース選択枠」入学者対象</p>	<p>▶プロジェクト研究：1、2年次には、学部学年の枠を超えた少人数のチームで環境問題や地域課題など身近なテーマに取り組む「プロジェクト研究」を実施。情報収集・検討、調査・実験、プレゼンテーション、公開に至る研究活動の中で、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性など社会で必要な基礎力を実践的に身に付ける</p>	<p>▶1年次から実践型の授業科目(アクティブ・ラーニング)で地域の特徴と課題を把握するスキルを学ぶ。地域住民をはじめとした地域の人々とのさまざまな関係性とのコミュニケーションを通して地域づくりに必要なプロジェクトを実際に企画、立案、実行し評価できる能力を養う。地域との協力・協働による実践的な活動を通して、多様な視点から地域社会を分析し、課題解決に向けたアイデアを具体化できる能力を身に付ける</p>	<p>▶「もやいすど」育成プログラム(全学共通)</p> <p>1年次は全学生が地域のフィールドワーク、あるいは防災に関する体験学習を受講。以降は選択制で、2年次は地域課題解決に必要なファシリテーションスキル、調査技法を学ぶ。3年次は地域企業から募ったテーマを卒業研究として取り組む「学生GP制度」などに参加する</p> <p>▶基礎総合管理実践、基礎総合管理実践演習(総合管理学部)</p> <p>2年次前期に選抜方式で開講。ファシリテーションやフューチャーセッション(多様な立場を分析し、課題を続けることで目的を創り出し、達成に向けて協働することを目的とした場)の技法を身に付ける</p>
高大連携の取り組み	<p>▶高校生のための看護職キャリアデザイン講座「一日みかんたい生」。学生の体験談、看護職者(看護師・助産師・保健師)による講義とフリートーク、キャリアデザインワークショップを実施。今年はWeb開催</p> <p>▶オープンキャンパスの際に未来面談を実施。教職員が進路や将来の悩みを聴く</p> <p>▶県内高校を本学教員が訪問して、看護職に関心のある高校生を対象に、看護職についての理解を深める「出前授業」を実施</p>	<p>▶広島県教育委員会や県内高校と連携した教育実践発表会の開催、高校生向けの各種公開講座や高校へ出向いての講座の実施など、高大接続の強化を図り自律的なアクティブ・ラーナー育成に関わる取り組みを推進</p> <p>▶高校における教育実践を学ぶための授業見学や県内高校との「高大連携に関する協定」の締結などに取り組み、高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めると共に、大学の求める学生像および教育内容への理解を深め、高校での学びとの接続を意識した大学教育の活性化を図っている</p>	<p>▶出前授業：公立鳥取環境大学での授業の様子を知ってもらうために要望があれば実施</p>	<p>▶島根県内の高校との高大連携を積極的に進めており、関係が進化している高校とは連携協定を結んでいる</p> <p>(例)「ゼミ開放事業」(県立大社大高校、平田高校)、「学生と高校生協働によるフィールドワーク」(県立平田高校、隠岐島前高校、松江農林高校)、「協働による地域課題解決型探究学習の実施」(県立松江南高校、学校法人大多和学園)など</p>	<p>▶高大連携モデル校(7校)、以下の取り組みを行っている。</p> <p>①教員間の意見交換・授業参観 ②双方の教員が授業に参加</p> <p>③高校生・学生間の交流 ④高大接続・初年次教育用の補助教材の開発についての検討</p> <p>(2019年度実施例)熊本北高校のSSH事業「有明海干潟実習」に講師派遣、八代中学校の生徒を対象とする大学訪問受け入れ(模擬授業・施設見学)など</p>

入試は一番関心が高く、中でも多面的に評価する年内入試は、その大学の教育の特徴を伝える一番の広報材料だ。一方、受験そのものに手間がかかる年内入試の場合、入試要項だけではその意図は伝わりにくい。そのため掲載大学の多くは、入試に絡んだ高大接続のプログラムを実施したり、入試そのものがその大学の教育を体現する内容になっていたりする。一部の大学については、P.20からの大学事例で詳細を掲載している。

「コロナ禍対応」 免除や代替だけでなく 新方式の追加も

国立大学協会、公立大学協会は、共通テストに特例追試験が設けられたことを受け、追試験受験者については合格発表の期日を6日間、入学手続きの期日を4日間、後ろ倒しにすると発表している。

今回取り上げた15大学の対応を類型化してみると、入試日程の変更のほか、「対面で行う予定だった面接等の試験を中止、もしくはオンライン実施、書類等で代替」(滋賀大学、桜美林大学、東北福祉大学など)、「英語の資格・検定試験の成績提出を除外、もしくは他の試験、書類等で代替」(金沢大学、鳥根大学、三重県立看護大学、県立広島大学など)、「活動実績について(一部)報告を除外あるいは他の試験、書類等で代替」(島根県立大学、熊本県立大学など)、「新たな入試方式を追加」(聖学院大学など)がある。表では取り上げていないが、大正大学は、年内入試に対面式のほかオンライン式も導入、募集人員や選抜方法も分けて実施すると言う。コロナ禍は、今までの入試の当たり前を見直すチャンスと言えよう。

入学前教育

意欲醸成、個別指導：入学前から大学教育

入学までの「穴埋め」ではなく、大学での学びにつながる教育を整える大学が増えつつある。滋賀大は、入学予定者と在学生在が反転授業に取り組む「高大コラボゼミ」を実施。聖学院大学は、合格者同士の交流や大学教育への興味喚起を目的としたプログラムを設けている。小樽商科大学の「ギャップイヤープログラム」は「グローバル総合入試」合格者のうち数人に対し入学を1年猶予し、その間の海外留学をあっせんする。

また、多様な学生の受け入れに合わせ、個別対応も進む。表では

*2020年8月時点。最新の情報は各大学のWebサイト等をご確認ください

編集部が目じた年内入試【私立大学】

	東北福祉大学	桜美林大学	城西大学	聖学院大学	高崎商科大学
年内入試比率 (年内入試募集人員／全募集人員)	570人／1300人(44%)	1345人／2520人(53%)	758人／1660人(46%)	231人／540人(43%) ※2020年度	95人／200人(48%) ※短期大学部は除く
注目の年内入試	<p>学校推薦型選抜 高大連携*</p> <p>▶実施学部：全学部(27人)</p> <p>▶出願条件：同大実施の「高大連携プログラム」に参加し修了した生徒</p> <p>▶選抜方法：①書類審査(推薦書、調査書、志望理由書、活動報告書)(100点) ②小論文(テーマ型、または課題文提示型、学科による)(100点) ③面接(2対1、15分)(50点)</p> <p>総合型選抜 I期・II期(I期：118人、II期：56人)</p> <p>▶実施学部：全学部</p> <p>▶出願条件：第一希望者</p> <p>▶選抜方法：＜第一次選考＞①書類審査(調査書、志望理由書、活動報告書)(100点) ②学力検査50点×2科目(100点) ③面接(2対1、20分)(100点) ＜第二次選考＞①各学科選考(系列の福祉施設での一泊二日の体験実習や課題レポート提出等)(100点) ②プレゼンやディスカッション等(100点) ③面接(2対1、口頭試問含む)(100点)</p>	<p>総合型選抜第1・2回</p> <p>▶実施学部：全学部(752人)</p> <p>▶選抜方法：＜一次審査＞①入学志願者調査(読んだ本について等) ②自己申告書 ③活動報告書 ④志願者評価書 ⑤調査書等 ＜二次審査＞2対1の面接(志望動機、提出書類、課題図書について)等(芸術化学系は実技審査等)</p> <p>▶出願方式：専願・併願があり、併願は他大学へ志願することも可能。所定の期間内に入学手続きを行った者については、本学への入学資格を有しながら、他大学の総合型や学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜にチャレンジすることができる</p>	<p>総合型選抜A・B日程</p> <p>▶実施学部：＜A日程＞全学部全学科(76人) ＜B日程＞経済、現代政策、経営、理(化)、薬(32人)</p> <p>▶選抜方法：＜一次審査＞エントリーシート、志願理由書、調査書の他、学科によっては資料、課題レポートによる書類審査 ＜二次審査＞エントリーシートや一次審査後に渡される課題に基づく面接審査(口頭試問、プレゼンテーション含む)、学科によっては基礎学力試験を課す</p> <p>▶出願方式：自由応募方式</p> <p>学校推薦型選抜A・B日程</p> <p>▶実施学部：＜A日程＞全学部全学科(399人) ＜B日程＞経済、現代政策、経営、理(化)、薬(43人)</p> <p>▶出願条件：指定校制(専願)</p> <p>▶選抜方法：面接審査(口頭試問含む)および書類審査</p>	<p>総合型選抜(105人)</p> <p>「高大接続教育」の意義を体現する入試。受験生との「対話」をさまざまな形で実施。受験生本人が記載する書類として、大学独自の「自己カATALOG」(高校生生活記録／大学生生活計画書)を面接で利用</p> <p>【課題解決入試】日頃の勉学に対する姿勢を評価</p> <p>▶選抜方法：2方式で実施 ＜講義方式＞①講義ノート(50点) ②発表(50点) ③面接(100点) ＜小論文方式＞①小論文(100点) ②面接(100点)</p> <p>【アンバサダー入試】大学に進学することの意味を受験生と共に考える。そのうえで本学入学後に「アンバサダー(代表)」的な存在となる受験生を求める入試。試験だけでなく、出願までの情報提供や相談などのコミュニケーションを通して受験生と大学の「相性」を評価確認する</p> <p>▶選抜方法：①グループディスカッション(テーマは事前に提示)(100点) ②面接(100点)</p>	<p>総合型選抜 探究・ブレインストーミング型</p> <p>ブレインストーミングを用いて主体性を評価。企業と共同開発</p> <p>▶実施学科：経営(総合型選抜 面接型と合わせて10人)</p> <p>▶選抜方法：①ブレインストーミングプログラム ②読解力と数理解を測るペーパーテスト ③集団面接 ④調査書</p> <p>学校推薦型選抜 Haul-A特待生推薦</p> <p>大学と協定を結び商業科を擁する高校に対し、高校～大学の7年間で職業会計人を育てる高大連携プログラムを提供。このプログラムの受講者を対象とした入試。授業料の全額または半額を免除</p> <p>▶実施学科：会計(若干名)</p> <p>▶出願条件：「高大連携Haul-Aプロジェクト」に参加。日商簿記検定1、2級等に合格。入学後、会計プロフェッショナルコースを受講等</p> <p>▶選抜方法：学校の推薦書、調査書、志望理由書などの書類選考</p>
コロナ禍対応 (感染予防、学習の遅れ等)	<p>▶学校推薦型選抜「高大連携」の出願条件である「東北福祉大学 高大連携プログラム」はオンラインで実施</p> <p>▶入試日程の変更(総合型選抜I期後ろ倒し)</p> <p>▶総合型選抜(第二次選考)の体験実習を課題レポート提出および事例解釈・事例考察レポート作成に変更</p>	<p>▶高大連携プログラム「ディスカバ!」はオンラインで実施、これまでに40を超えるプログラム配信</p> <p>▶年内入試の二次審査は原則、オンラインで実施(9月入学者の入試を6月にオンラインで実施し、問題なく実施できたことから)</p>	<p>▶総合型選抜A日程エントリー期間の後ろ倒し</p> <p>▶感染防止対策を徹底し、面接審査を実施予定</p> <p>▶総合型選抜で、薬学部薬学科では基礎学力試験を二次審査で実施。薬学部薬科学科では、基礎学力試験から口頭試問へ変更</p>	<p>▶密にならない入試方式として、課題解決入試に小論文方式を導入</p> <p>▶アンバサダー入試で実施を予定していたオープンキャンパス時の「ワークショップ」とその後の「事前相談」を取りやめ、出願前の相談を電話・メール・LINEチャットで受け付け</p> <p>▶オンライン説明会等で受験生とコミュニケーションを図る。質問の多い項目には「FAQ集」を作成し、配信する</p>	<p>▶個別試験は、原則ソーシャルディスタンスはじめ安全性を保ったうえで対面で行う。遠隔地の受験生対応は、オンラインによる面接を検討中。推薦I期でコロナにかかってしまった人をII期で受け付ける、などの配慮を行うことを検討中</p>
入学前教育 (内容と担当部署)	<p>▶全ての入試の入学予定者を対象に、学科ごとの課題レポートを実施(現在入学前教育の個別指導化を検討中)</p> <p>▶担当：学部学科や入学センター、教務部と連携</p>	<p>▶リベラルアーツ学群：人文・社会・自然の3つの分野から教材を一つ選択し、思考力を高め、大学教育の準備を行う受益者負担の入学前教育実施</p> <p>▶その他の学群：5教科の復習ドリル「さくドリル」</p> <p>▶担当：入学部</p>	<p>▶入学予定者を対象に入学前プログラムを実施</p> <p>▶薬学部医療栄養学科：化学と生物の基礎が学べる市販の入学前教育プログラムや大学オリジナル課題、読書感想文を課す</p> <p>▶担当：各学部学科担当</p>	<p>▶合格者同士の交流などを行う「全学プログラム」、大学教育の魅力伝える「学科プログラム」、基礎学力の定着を図る「eラーニング」を実施</p> <p>▶担当：基礎総合教育部会。職員がタスクフォースで協働する</p>	<p>▶経営学科：5教科の復習ドリルを複数用意し、合格者が選択。その他、入学後の抱負に関するエッセイ(600字程度)の提出やスクーリングを実施。教務委員会が担当。加えて2020年度は、ブレインストーミング体験の提供を検討中</p> <p>▶会計学科：経営学科と同内容(ブレインストーミング体験除く)に加え、簿記・会計の理解度、習熟度に応じたWeb教材および答案練習問題を提供。入学後に確認テストを実施</p> <p>▶担当：教務委員会および高崎商科大学経営研究所</p>
入学後の特徴的な教育	<p>▶初年次教育は、問題解決型学習を視野に置き、1年次からゼミ(リエゾンゼミ)を設け、さらに、在学生のティーチング・アシスタント、ピアメンターなどにより、学習相談から生活相談などを実施</p> <p>▶初年次教育は、学部学科や教務部、入学センターと連携</p>	<p>▶学群制：日本の私立大学として初めて学群制という教育システムを導入。隣接する学問領域を学生一人ひとりの興味関心に合わせて、主体的に学ぶことのできる制度を採用</p> <p>▶サービスマーケティング：地域社会のニーズに基づき、学生が大学の授業で学んだことを地域貢献活動を通して特定のコミュニティに還元していく学習体験活動を展開</p>	<p>【薬学部医療栄養学科】</p> <p>▶化学・生物を基礎から学ぶリメディアル講義を実施。専門科目に対する不安を軽減</p> <p>▶Web学習教材を活用した自習で、疑問について自ら解決する力を高める</p>	<p>▶連携協定を結んでいる岩手県釜石市への派遣などのボランティア活動</p> <p>▶「地元学」「宮原地域学」「釜石学」「埼玉学」「地域と芸術文化」等、地域に密着した科目を設置。初年次教育は、全学共通科目と各学科で実施</p>	<p>▶探究・ブレインストーミング型：授業内のALやPBL、企業連携教育「3.5本の矢プロジェクト」等でブレインストーミングを実践する。教員は事前に、その手法を学ぶワークショップを受講している。FD/SD委員会による実施を、広報・入試室が支援</p> <p>▶Haul-A特待生推薦：公認会計士や税理士資格の取得をめざす、「会計プロフェッショナルコース」を提供</p>
高大連携の取り組み	<p>▶東北福祉大学高大連携プログラム：各学科の専門分野の教育を体験(ガイダンス、模擬講義、課題レポート作成、グループワーク等)し、大学への理解を深め、高大接続(連携)を強化するプログラム。終了後は、成果を高校等にフィードバックし、その後の学習活動や進路指導へ活用。プログラム修了者には「修了証」を発行。高3生には「高大連携」入試の出願資格を授与。修了者は入学選抜の志望理由書や活動報告書への利用が可能</p> <p>▶包括連携協力協定校：宮城県教育委員会および県内5校と協定を結び、学習支援や入学者の選考方法等の研究を実施</p> <p>▶「総合的な学習の時間」に対するプログラム：県内の普通科の「総合的な学習の時間」および専門・総合学科の学習の一環として、各学科の学びを体験(模擬講義・実習等)。今後は包括連携協力協定の締結を検討</p> <p>▶アカデミック・インターンシップ：高校生が大学の希望する学びの分野を体験(ゼミ活動への参加等)するプログラム</p>	<p>▶高大連携プログラム「ディスカバ!」：高校生のためのキャリア支援プロジェクト。1年生から参加可能。通年開催。英語、SDGs、心理、音楽、航空など、年間約40のプロジェクトを提供。高校生は任意のプロジェクトに参加し、在学生のサポートの下、ワークショップ形式で探究。本年はオンライン開催。参加者には参加証を授与。参加証は、総合型選抜の活動報告書への活用も可能。高校生から提案された企画を実施するマイプロジェクトもあり。個人参加のほか、高校単位で参加する連携高校制度もあり</p> <p>▶総合・推薦型入試準備セミナー：これまでに得た学びや経験を洗い出し、大学での学びや活動につなぐための情報整理をサポートし、言語化していく。7、8月はオンライン開催</p>	<p>▶オンラインによる学科説明会および総合型選抜説明会の実施</p> <p>▶県内公・私立高校との包括連携協力協定締結</p> <p>▶高校への出張講義を実施</p> <p>【薬学部医療栄養学科】</p> <p>▶栄養に関わる出張講義を実施</p> <p>▶入学後、化学と生物の課題試験を実施し、リメディアル講義に活用</p>	<p>▶入試に関する質問をLINEチャットで受け付け</p> <p>▶人文学部主催で「高校生ビブリオバトル・ワークショップ」を開催</p> <p>▶近隣の高校と提携し(児童学科と心理福祉学科)、高校生が大学の授業を体験</p> <p>▶「グローバルキャン」を開催し、高校生や入学予定者にも参加を募集</p> <p>▶日本化学科設置科目「地域と芸術文化(盆栽文化)」への参加を県内の高校生にも募集</p>	<p>▶高校生に向けて、ブレインストーミングの体験ワークショップを実施</p> <p>▶探究教育、ブレインストーミング等に関心を持つ高校教員に向けて、セミナー、ワークショップ等のイベントを実施</p> <p>▶商業高校を中心とした全国40高校、および4つの高校団体と協定を締結。Web講義、セミナー、合宿などで段階的に簿記会計を学び日商簿記1級取得をめざす「高大連携Haul-Aプロジェクト」を実施</p>

取り上げているが、例えば徳島大学は、学習歴に偏りが生じがちな科目について入学前教育をWeb上で展開、小テスト、質問を送れるレポート機能、映像教材などを提供している。一方、入学前教育を入学予定者のデータ収集にも活用しているのが高知大学だ。「高知大学入学前modeler」早期合格者学習支援システム」によりコースごとの課題を提供。取り組みデータを取得し、入学後の指導や入試の改善に役立てている。

入試と教育の連携

改革総合支援事業の評価項目としても登場

独自の観点で評価を行う年内入試で話題をつくれたとしても、そこで評価した力を伸ばす教育プログラムが入学後に用意されていないければ看板倒れだ。例えば、高崎商科大学では、教育改革を先に行い、その教育の特徴を高校や高校生に広める手段として、入試改革を行っている。また、金沢大学の「KUGS特別入試」の評価基準は、学部生が取るべき行動、身に付けるべき力をまとめたKUGS(金沢大学「グローバル」スタンダード)に基づいており、入試と教育の一貫性が高いと言える。

ちなみに私立大学の場合は、2020年度の私立大学等改革総合支援事業タイプ1において、「入試で多面的・総合的評価を行い、評価した能力を伸ばすための初年次教育等を行っているか」が評価項目になっている。

高大連携

探究学習の支援を通じた連携が盛ん

いわゆる「出前講義」のような単発の連携だけでなく、自学の学びへの接続を視野に入れた継続的な連携も増えてきている。

活発なのが、探究学習の支援等を通じた連携だ。高校単位で連携を行うのは島根大学、島根県立大学、熊本県立大学など。教員や学生を派遣したり生徒を大学に招いたりして、探究活動や進路研究をサポートしている。一方、電気通信大学、金沢大学、東北福祉大学、桜美林大学などは、在籍高校を問わず参加できるワークショップ等を大学が開講。参加歴を活動実績として入試に使える大学もある。

専門課程との学びの接続を重視し、専門高校校を設ける大学もある。進学率に伸びしろがある専門高校に対し、高等教育への門戸を開く取り組みであるとも言える。

*東北福祉大学の「高大連携入試」についての詳細は、Between情報サイト(<http://between.shinken-ad.co.jp/>)で紹介している。*年内入試の動向②大学教育を先取りする入試-東北福祉大学